

## 『肝性脳症の新しい治療 カルニチン』

肝臓川柳



『カルニチン 分解させます and more』

(いろいろな働き…and more…アンド モア…アンモニア…)

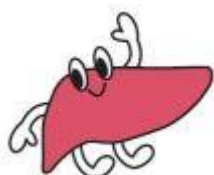
前回は“腹水”の新しい治療を紹介しましたが、  
今回は、肝硬変の3大合併症のもう一つ“肝性脳症”の新しい治療について紹介します。  
肝硬変で肝機能が低下し、血中アンモニア値が上昇すると、  
肝障害時特有の意識障害“肝性脳症”が出現します。

通常の治療は、

- ① 血中アンモニアを上げないために、食事で蛋白を制限したり、
- ② 便通を促すとともに、ラクツロース製剤や非吸収性抗生剤を使用して、  
腸管からアンモニアが吸収されないようにしたり、
- ③ 分岐アミノ酸を投与してアミノ酸バランスを是正して、  
脳症を改善させますが、

それでもアンモニアが下がらず、脳症がコントロール出来ない場合があります。

筋肉との関連で以前“カルニチン”を紹介しましたが、  
カルニチンは、そもそもミトコンドリアで脂肪を分解する働きを担っており、  
その時に尿素サイクルという代謝過程を促進させて、アンモニアを分解する働きがあります。  
通常の治療とは全く異なる機序でアンモニアを下げ、  
しかも特に肝機能の悪い（肝予備能の低い）患者さんで効果が高いのが特徴であり、  
最近注目されている治療です。



これだけ覚えておけば損はない！

今 回 の ポ イ ン ト

肝硬変で肝機能が低下し、血中アンモニア値が上昇すると、  
肝障害時特有の意識障害“肝性脳症”が出現します。  
カルニチンは尿素サイクルを促進させて、アンモニアを分解する働きがあり、  
通常治療とは全く異なる機序でアンモニアを下げていきます。  
特に肝機能の悪い患者さんで効果が高いのが特徴で最近注目されています。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫)